

食の健康機能性で論議

十勝と函館の研究者交流会

十勝と函館の都市エリア産学官連携促進事業関係者が意見を交わした交流会



説明した。

函館の事業については、北大大学院水産科学研究院の宮下和夫教授が、道南で取れる海藻が持つ色素の一種フコキサンチンに肥満予防効果などがあることを解説した。

研究発表後は食事を共にしながら互いの研究について意見交換し、交流を深めた。

(中野訓)

「都市エリア産学官連携促進事業」(文部科学省所管)を道内で進める十勝と函館の事業関係者の交流会が九日、帯広市の十勝産業振興センターで開かれ、「食の健康機能性」をテーマにそれぞれの研究成果を発表、意見交換した。

同事業は地域の一次産品の付加価値を高めて地場産業育成を目指すもので、道内では十勝と函館両エリアが採択地域になっている。

十勝からは、帯畜大畜産学部の大西正男教授が発表し、ジャガイモタンパク質が分解してできるアミノ酸結合物質ポテトペプチドに、血中コレステロール濃度を低下させ

る効果があることを明らかにした研究内容などを